

IR 区域の液状化対策について(事業者意見など)

大阪市に情報公開請求して入手した資料から、IR カジノ事業者から夢洲の土地対策について「要望」の一端が明らかとなる。事業者意見などを抜粋して紹介する。

◇IR 区域の液状化対策について 2021年6月 IR 推進局

〈液状化に関する事業者意見〉

① 夢洲特有の軟弱地盤を踏まえると、建物構造側（杭補強等）では困難

*夢洲での大規模開発は、支持基盤（洪積層）が長期に沈下する極めて稀な地盤条件下での施設建設となるため、地盤沈下対策だけで複雑かつ高難易度の技術検討が生じている。*このような地盤条件下で、さらに液状化が生じた場合の建物影響は技術的にも未知であり、地盤沈下・液状化の複合影響を建物構造側で抑止・抑制する方法（杭補強等）では、確実な安全性を担保できない。

②IR 事業の投資規模、大規模な施設群・集客性、超長期の確実な安心・安全確保等を踏まえると、液状化危険度のない土地での開発が必要

*東京ディズニーランド/ディズニーシーでの液状化対策（大規模集客施設・テーマパークとしての類似性）

埋立地の液状化対策として、建設時に敷地全体を地盤改良（サンドコンパクション工法）

*本来は、埋立造成時に土地利用の安全性を考慮した地盤対策が必要

⇒万全な液状化対策が必要であり、大阪市内で敷地全体の地盤改良を行った上で、土地を引渡す必要

○IR 区域の液状化可能性

・事業者ボーリング調査(39箇所)により、IR 区域内の埋立層に液状化の存在が判明

・大地震時において液状化被害が懸念される箇所が IR 区域内に点在

*8 地点/39 地点で液状化危険度が高以上(PL 値>5)

*16 地点/39 地点で液状化程度が中以上(Dcy 値>10)

○必要となる液状化対策

①夢洲特有の軟弱地盤

長期的な地盤沈下、支持層の深さ、不均質・若齢の埋立層

液状化層の点在、地盤沈下・液状化の複合影響等

②IR 事業用途としての適性

災害時に求められる高い安全性（世界最高水準の IR、国際観光拠点、夢洲の立地）

超高層を含む大規模施設群、大規模集客、事業の超長期性

⇒上記を考慮の上、災害時に高い安全性が確保できることを前提とした十分な液状化対策が必要

(2022年6月3日)